

確かな学力・豊かな心・健やかなからだをもち、
未来をたくましく生き抜く生徒の育成

たかが食事 されど食事

一月の中頃二日間にはわたり雪が降ったと思っ
たら、下旬にかけて日本全体を第一級の寒波が
襲い、ついに臨時休校となっていました。
大きな事故などなくほっとしています。水道な
どのライフラインも、市の職員の方々の努力で、
ほぼ復旧したようです。

三年生は、次々と入ってくる入試の結果を受
け止めながら、県立高校一般入試へ向かっている
ところです。

先日ある講演会で、「日本人の食に対する考
え方」の話があり、その中で引用された、内田美
智子さんの言葉が印象的だったので紹介します。
日本人は昔から、食事を「命を交換する儀式」
ととらえている。だから食べるときに「命をい
たいただきます」と言う。このことを、内田さんはこ
ういう言葉で表現します。

(生産者の方々の思いを
考えるとき)「いただきます
も「ごちそうさま」も
言わずにごはんを食べるこ
とは、私たちには許されな
いことです。

感謝しないで食べるなん
て許されないことです。

食べ残すなんてもつての
ほかです

By 内田美智子

は、延期になりましたが、コスモー井の給食で
おります。手塩にかけて育てた牛が、やがて
肉となり食卓に並びます。
毎日食べる食事は、全て奪われた命なんで
すね。私たちの身体に入り、私たちの「生
意」をもって引き継がれていくんです。「感謝と敬
意」をもつて食べないといけないなあと感じ
ました。

《日本の伝統楽器～三味線に触れる》

1月28日、昨年に引き続き、「池山三弦道」の皆様にお越しい
ただき、1年生に三味線の指導をしていただきました。初めて触れ
る日本の伝統楽器に、最初は慣れず四苦八苦していましたが、やが
て全員で合奏できるようになりました。

最後の師範演奏も、力強く腹に響くようでした。



《市P研究大会報告》

1月30日に、市PTA研究大会が市の食育推進委員会との共催で文化ホールで行われました。
今年度は、須木地区が運営担当となり、保護者の皆様からご協力をいただきました。ありがとう
ございました。概要を報告します。

アトラクションでは、「いちよう太鼓」を須木小中の皆さんが披露してくれました。日頃から
練習を積んでいるだけあって、堂々としたみごとな演奏でした。

東方小中学校より、小中一貫PTA活動についての報告・紹介がありました。最後に両PTA会
長から、「P戸数減はあるが、PTA活動は楽しんでやるものである。」という話がありました。

その後、西日本新聞編集企画委員の佐藤 弘 氏の講演がありました。演題は「食卓の向こう
側に見えるもの～10年先の未来～」。軽妙な語り口で、会場を巻き込みながら講演会が進みました。

現在の大学生の食生活の実態例から、「口が開いている子の増加」「低体温症」「体外受精の増加」
などの問題点が指摘され、特に、「大学生の食の実態は10年前と変わっていない。10年前の大
学生が、現在の30代の親になっている。このまま、あと10年経つと日本はどうなるのか」とい
う問題提起があり、「子どもができなくなり、日本は滅びるのではないか」と予想していました。

こういった状況の大きな原因として、「①自分の身体のことを分かっていないこと(自分の身体
であって自分の身体でない)、②料理を作りきれないこと」を挙げていました。

これらを解決するためには、「食を通して、(命などの)価値観を取り戻す」ことが必要であり、
それは、「教育」が負うところが大きい。「弁当の日」の取組は優れたものであり、「子どもに魚を
与えるな、釣り針を与えよ」という視点で、家庭や学校での教育が必要不可欠であると結びました。